

甲南Today

大学の未来が見える

No. 7
2001
10.1

甲南Today No.7



学内資格講座を活用しよう

MOVE IN KONAN
「大学の個性ってなんだろう？」

2001年の月日発行 [発行] 甲南学園出版部 〒659-8501 神戸市東灘区阪本町1番1 TEL.078-431-4241(代)

シリーズ●甲南学園の20世紀 ⑦

昭和20(1945)年



平生鈇三郎の学園群

生涯を終えてなお、社会に貢献し続ける、 平生鈇三郎の精神と業績。

日本中が太平洋戦争の敗北に意気消沈していた昭和20(1945)年11月27日、甲南学園はさらに深い悲しみに包まれます。学園の創立者である平生鈇三郎が、その80年におよぶ生涯を静かに閉じたのです。翌12月16日には、甲南高等学校講堂において学園葬がしめやかに行われ、偉大な創立者の死を学園全体が悼みました。

しかし、平生鈇三郎の業績は、これで完結したわけではありません。晩年に請われて日本製鉄の会長に就任し、当時、年間300万トンだった鉄の生産量を500万トンにまで引き上げる体制をつくり上げたことは、敗戦後の日本が産業を復興させていく礎となりました。あるいは、大日本産業報国会の編成におい、平生が戦時下にもかかわらず、民主主義的な組織をつくったことは、戦後直ちに労働組合が発足し、日本が民主主義国家に生まれ変わること大きな役割を果たしました。

平生は戦前より、むしろ戦後に大きな足跡を残したと言えるかも知れません。

平生鈇三郎の生涯は、常にこの歩みを辿らない、真実に人生を歩みしめる人は、常に精神の息を吐くことと努力でできた人である。

平生鈇三郎定規稿「甲南11年発行より」

インターネットで甲南大学へ <http://www.konan-u.ac.jp>



- 01 Pick up the 甲南
○甲南学園マークモニュメント
- 02 WHAT'S NEW! KONAN
○大学院学術フロンティア 第3回公開シンポジウム
○広東省学生訪日団との交流会
- 03 KONAN CAMPUS WATCHING
**学内資格講座を
活用しよう**
- 07 キャンパスライフここが知りたい!
～平生記念セミナーハウス編～
- 08 MOVE IN KONAN シリーズ第3回
「大学の個性ってなんだろう？」
- 13 学びの最前線! アカデミック・ナウ
○岡田ゼミ
○原田研究室
- 14 KONAN PEOPLE 甲南ピープル
○甲南大学生の未来につなげる就職部と卒業生の絆
- 15 クラブ・サークル紹介
○体育会女子ハンドボールクラブ
○文化会女声合唱団アモローゾ
- 16 キャンパスダイジェスト
新刊レビュー
- 18 甲南フォーラム
- 19 甲南学園の20世紀



今回の表紙
広東省学生訪日団との交流会
中国・広東省から訪れた20人の学生たちと甲南大学生が、言葉や文化の壁を越えて触れ合った交流会の一場面。この欄しに関する詳しい内容は、次のページでお知らせしています。

Pick up the 甲南

甲南学園マークモニュメント

高さ2m、幅1m、厚さ0.3mの透明なアクリル製に、赤と白と青黒の鮮やかな色白いでサインされたKONANのシンボルマーク。これは、図書館の玄関ホールにあるその名も「甲南」と名付けられたモニュメントです。この作品は、昭和53年6月に竣工した甲南中学高等学級講堂の建物の図柄制作を、ヨーロッパの国際美術展で数々の賞を受賞した版画家、菅井汲氏に依頼したのをきっかけに、本学園の創立60周年シンボルとして制作されたものです。
本学の校章である「甲」を巧みにアレンジしたこのデザインは、「芸術新潮」（昭和53年9月号）にもART NEWSとして大々的に紹介されると、大変好評を博しました。

WHAT'S NEW! KONAN

電子メディアの台頭で、現代人の心はいかに変わったか。「心の危機」に挑んだシンポジウム。

大学院学術フロンティア 第3回公開シンポジウム

7月29日(日)アリアの姿を「在り」に、大学院学術フロンティアの「環」として第3回公開シンポジウムが開かれました。電子メディアが推進し、あらゆる情報に氾濫する現代。私たちはインターネットまで交わってしまったのか。哲学から美学、臨床心理学、アートまで、異なる分野からアプローチし、今後の方向性を探ろうとする試みです。

第一部は、まず眞田浩「先生、大阪大学、哲学が」「私がメディアについて考える」「三の事柄」をわかりやすく説明、続いて西村



清和先生(埼玉大学、美学)が「脱遊戯の現在」について、名取球自先生(京都文教大学、臨床心理学)が「情報機器と深層心理学」について発言。最後はアライストのKOGUJI ANDO(小杉美穂子、安藤美穂子)さんが会場の幅360度をスクリーンに、斬新な映像を演出してくれました。

第一部では、司会者、指定討論者も加わり、それぞれ率直な意見を交換。心のシンポジウム自体は変わっていないのでは、「アライスト」(情報)をインターネット(創造)に「なげる」ことが大切などと、徐々にまとまりをみせながら、シンポジウムな方向性が示されました。

キャンパスが「熱烈歓迎」ムード一色に。中国・広東省の学生20人が来学！

広東省学生訪日団との交流会

89年から兵庫県が実施している「天学洋上セミナー」、これは本学をはじめ兵庫県の国公立、私立大学の学生を対象に行っている国際交流の取り組みで、船上で講義を受けたからアジア・オセアニア諸国を訪問し、国際理解を深め

ようとするものです。その成果の「一」として、この夏、初めての中国の学生訪問団が結成され、本学にも20人の広東外語外資大学の学生が来学しました。

8月22日午前10時から始まった交流会では、まず宮沢英成学長から歓迎の挨拶が述べられ、続いて広東外語外資大学の学生代表からの挨拶、そして記念品の交換。その後、歌舞伎文楽研究部による白濁五人男、稲瀬川勢揃いの場、演技、昼食を挟んで、午後からは茶道、料理部進心会によるお茶会、花の披露、女声合唱団モロソによる合唱などがありました。

限られた時間でしか、社内食事をし、日本文化に親しみ、言葉を交わし、交流を深めたこの日、甲南大学の学生にとって、貴重な経験となった一日でした。





将来の目標に応じて選べる全8講座を開講！ ※学内資格講座はすべて有料です。

**日商キータッチ2000
テスト認定対策講座**

キータッチ2000テストは、キーボードを見ずに入力する「タッチタイピング技能」において、そのスピードを証明するものです。対策講座は年3回、それぞれ15時間の短期集中型として実施。うち13時間でブラインド・タッチをマスターし、残り2時間でテスト練習と試験を行います。初心者対象の講座なので、パソコンが初めてという人も安心して参加できます。



**日商ビジネスコンピューティング
3級合格講座**

ビジネスコンピューティングとは、企業などで日常的に使われるパソコンソフトウェア活用技術の習熟度を量る検定です。講座では、表計算ソフトを使った集計、グラフや表の作成、データの並び替えなどの操作をテキストでマスターしてから、検定試験の過去問題を徹底的に解いて実力を養成。模擬を体験することにより、試験感覚も養えます。

**日商ワープロ検定3級
合格講座**

パソコンにほとんと触れたことさえなかった私が、短期間で10分間に1500字ものタイピングをできるようにしたのは、日商ワープロ検定3級合格講座の先生方のおかげ。飲み込みが悪いので、最初のうちはどうしてもキーボードを見ながら打ってしまい、見ないと間違えるので、すぐ嫌になりそうだったのですが、先生方が親身になってくださるまで教えてくださり、最後まで諦めずに頑張りました。本番で、いつも以上に多く打てたことを一緒に喜んでくださったのもうれしかったです。この講座は、思っている以上に力が付くと実感したので、迷っている人があればぜひオススメです。

**簿記検定 2級・3級
合格講座**

現金の収支や決済、物品の購入、商品の仕入れや販売、債権や債務の発生などを記録。企業の経営状態や財政状態を明らかにするのが簿記の役目です。講座は週2回のペースで行われ、まず6月に3級の合格、11月には最終目標である2級の合格をめざします。講師はいずれも指導の経験豊富なベテランばかりですから、気軽に受講できます。



通関士合格講座

経済学部 経済学科 4年 山本 明子さんが紹介します。貨物の輸出入の際、通関手続きの代行、関税の納付、異議申し立て、通関書類の作成などを行うのが通関士の主な仕事。試験がかなり難しく合格者が少ないため、資格の取得価値は高いそうです。当然、資格取得講座の講義もソライと想像していたのですが、実際はそうでもないかな。大阪税関で40年勤務された高田先生が、自分の体験を交えて教えてくださったので分かりやすいし、同じ目標を持った友達と競い合い、励まし合いながら勉強できるから、自然とやる気になる。楽しみながら、しっかり勉強しているという感じなんですよ。



**一般旅行業取扱主任者
合格講座**

経済学部 経済学科 3年 盛崎 友理さんが紹介します。将来は旅行関係の仕事に就きたいので、まずはその第一歩として、就職に有利と言われる「一般旅行業取扱主任者」資格取得をめざして対策講座で勉強しています。覚えなければならぬ内容が想像以上に多くて、ついていくのに一杯ですが、これまで利用者の立場でしか考えたことのない旅行を、サービス側から学ぶことは、新しい発見もあって楽しいし、将来と直接つながっている勉強だと思おう。不思議なほど頑張れますね。おかげで知識だけでなく、苦しいことから逃げない根性まで身につけてきました(笑)。

**宅地建物取扱主任者
合格講座**

法学部 法学科 2年 千古 友紀さんが紹介します。不動産取引は、取引額が高額なうえ、複雑な専門知識を必要とするため、円滑に取引を進めるには、相応の専門知識を必要とするそうです。私が対策講座を受講している「宅地建物取扱主任者」は、そのために必要とされる資格。いま講義の内容は、民法を終え、憲法に進んでいるところですが、初めて聞く専門用語ばかりなので、実のところ何が何やら(笑)。先生が、重要な部分は必ず強調しながら進めてくださるのが、ホントに助かります。また、ときどき配られるプリントには、講義で出てきた要点がまとめてあり、復習の際に重宝しています。

**初級システムアドミニストレータ
合格講座**

経済学部 経済学科 3年 石田 直子さんが紹介します。システムとは、コンピュータシステムやソフトウェアに通じた人に与えられる経済産業省認定の国家資格。いま、どの業界でも必要とされていると聞いたので、就職対策にと軽い気持ちで受験を決めました。だけど、国家試験合格をめざすわけですから、講座の内容も結構ハード。私がその中でもやっつけているのは、先生も受講生もすごく熱心で、その雰囲気には圧倒されているせいかな。Eメールで質問を受け付けてくださる先生もいらっしゃるし、本気でめざす人には申し分のない環境だと思いますよ。

**宅地建物
取扱主任者
資格取得**

経済学部経済学科 4年次
原 千馬さん、三井不動産販売株式会社 内定

「学生のうちに挑戦して正解。
学んだ知識は早速、生活に活かしている。」

不動産業界に進みたい人はもちろん、そうでない人にもおすすめ。もともと不動産業界に進みたかったのでも、宅建は必須だと思っていました。そのうえ、この資格は、試験に合格してからも講座やテストがあつて、免許取得までに1年弱と、とにかく時間がかかる。だから、時間のある学生のうちに、しかも就職活動に間に合う3回生のうちに取っておきたい、と思い、大学の資格取得講座を受講したのです。講座は、4限目が終わってから7時くらいまで、週2回(夏休みは週1回)なるもの。朝から夕方まで、僕にとっては少しハードな環境でしたが、この法律は前年と変わっていないから出るぞ」と出題傾向を教えてもらえ、試験に關係のある社会経済などは、新聞の切り抜きで具体的に説明してもらった。だから、具体的な説明を集中的に受けられるので、一人で勉強するよりずっと効率的だったと思います。また、宅建といつとなく専門的なイメージがあるけど、実は普段の生活でも役に立っています。たとえばマンション



合格必修の勉強法は、とにかく過去の問題を数多く解くこと。10年分500問の問題を何度も繰り返しながら、苦手分野も克服した。

宅地建物取扱主任者合格講座は、P6でも紹介しています。



開学
50周年
記念特集
シリーズ第3回

「大学の個性って なんだろう？」

時代の要請に応じた学部・学科の改組、教育目標に応じた柔軟なカリキュラムの採用、産学協同による研究の推進など、各大学における責任化への取り組みが盛んに行われ、これからの社会に必要な学びを追求するたため、大学はどんな個性を備えるべきだろう。開学50周年を記念した甲南Today第3回目の特集では、甲南大学開学の理念をひも解き、現在のカリキュラムにどう活かされているかを伝えます。これを通して、いま大学に求められる個性の在り方を探る。

平生創三郎先生尊像



学生用宿舎

セミナーハウススタッフ 島田 治子さんに聞きました

「平生記念セミナーハウスは、 どんな目的に利用できますか？」

平生記念セミナーハウスまではキャンパスから歩いて約20分、少し距離があるため、存在自体を知らない人も多いですが、でも実は、セミナーハウスの台席、研究会などのために甲南を訪れたOBOGの宿泊のほか、就職セミナーや講演会の会場などとして幅広く利用されています。3年前に建てられたばかりで新築同然、しかもコックリト打ち放しのモダンな建物なので、気に入った方が多いです。宿泊に来た他大学の学生さんに「ホントにこんなキレイなところに泊まりたいな」とか、「お話を聞きたれどもありません」と。土日は卒業生の方の同窓会や懇親会など、ハイティ会場としての利用が多いです。中には幹事役が初めてという方もいらっしゃるんですが、経験豊富なスタッフがご予算から伺って、何をどう飾り付けていくかをご提案し、一緒に準備を進めていきます。利用を検討されている方がいらっしゃいましたらぜひお気軽にご相談ください。



キャンパスライフ
ここが知りたい!

平生記念セミナーハウス編



甲南大学より南西へ徒歩約20分
JR神戸線住吉駅下車、北西へ徒歩約7分
阪急神戸線御影駅下車、南東へ徒歩約7分



平生記念セミナーハウス全景

- 使用の申し込み方法
使用希望日の10日前までに甲南学園事務課に連絡ください。
所定の用紙より申請していただきます。
- 甲南学園事務課
TEL: 079-4352337
TEL: 079-8541600
- 1 学びと親睦交流を深めるために、泊まり掛けの会合を行います。
- 2 富貴設備が整った環境で、演奏・合唱などの練習をたい、パーティーを催すなどを行います。
- 3 講演会の会場として利用したい。
- 4 平生記念セミナーハウスは、学生40名、教員6名まで宿泊可能な設備を完備。22席のセミナー室、多人数利用として活用された個室、男女別男女別、クワン会席も、最大2名、席を併用できるが、立食パーティーの会場としても利用できます。

歴史文化の学びはこれまで、社会学科に設けられた2コースのうちの一つでしかなかった。ITによる急激な社会構造の再編が進み、現在の変化を素早く捉えることが重視される。まあ、あえて歴史文化の学びを強化する背景には、いったいどんな狙いがあるのだろうか。文学部長の平松開教授によれば、実は歴史や文化を学ぶことで、いま起こっている変化を知るうえで重要だと言った。

「例えば、携帯電話。社会では携帯電話使用のモラルが確立できていないため、しばしば問題となっていますが、これは、携帯電話がこれまでにない、全く未知のツールであることが理由です。ところが別の側面から見ると、携帯電話は従来の「ミニコン・パソコン」つまり電話や手紙、掲示板などの役割を二つに融合していると思えることができます。『ミニコン・パソコン文化を歴史的にひも解いていく』と、携帯電話とどう向き合えばいいのか、自ずと見えてくるというわけです」

またこうした時間軸からの視点と縦の空間軸からの視点、この縦と横の視点を組み合わせることで、物事を立体的に

把握することができると平松教授は話す。「私が行っている研究の一つ、友人のネットワーク。もう、これは学生が大学に入ってから、友達との交友関係をどう広げていくのかを調べる研究ですが、オランダの研究者と共同で進めています。両国の研究成果を比べることで、日本人独自の特質がよりはっきり理解できるのです。今後は何らかの形で、これを過去の日本人の場合と比較し、現代の日本人の特質を浮き彫りにしたいと考えています」

ともすれば、目先の新しさばかり追いつめてしまいがちな現代。しかし、表面的な情報にばかりとらわれていては、物事の本質を見抜くことはできない。急激に進む社会の変化を捉えるには、その背景を深く理解することが、結局一番の近道なのだろう。平松教授は「いまこそ、この学域で現象の持つ深みを知って欲しい」と強調する。

時代に流されるのではなく、自分の視座を持つて変化を捉え、しっかりと活躍の足場を築いて欲しい。新学科の開設は、甲南大学が謳う、個性尊重の精神をまことに体現している。

歴史文化学科 4年間の学び	1年次	調査・研究の技法など、歴史・文化の基本に触れる 専門科目：日本学、技法と文化、歴史と思想、日本文化史、阪神文化論など
	2年次	ゼミに所属し、興味のある専門分野の学びを開始 専門科目：演習Ⅰ、日本史、アジア史、西洋史、史料研究、人文地理、地域文化研究など
	3年次	より高度な内容に進み、個別の研究テーマを深める 専門科目：演習Ⅱ、観光文明学、古文書学、文化伝流史、民族文化研究、比較文化史など
	4年次	積み上げてきた知識に基づき、卒業論文を制作 専門科目：卒業研究、教育実習、博物館実習など



Report 2

学部改編に見る甲南大学の個性

目先の変化ではなく、本質を見抜く。歴史文化の視点は時代を読み解くカギ。

2001年4月より文学部社会学科の歴史文化コースが学科として独立。歴史・地域視点から現在を研究する歴史文化学科が誕生した。文学部の改編は、どんな目的で行われたのだろうか。文学部長の平松開教授にインタビューし、甲南大学のめざす教育について伺った。

Report 1 学園創立者、平生飢三郎の理念に見る甲南大学の個性

「天才はすべての人にある」。甲南にいまも息づく、開学の想い。



個性あるキャンパスとして知られる甲南大学は、1人の実業家の、教育にける熱い想いから始まった。どんな理念が甲南の学びを築き上げてきたのだろうか。80年以上にわたり実践されてきた甲南教育の本質を探る。

キャンパスを出会う甲南大生は大学の印象を尋ねると、「自由な大学」という答えが実に多い。しかも80年以上前、日本の教育が欧米先進国の技術吸収・模倣に染まっていた頃にベルリンの学びを掲げた気風は、いまなおキャンパスに受け継がれているだろう。創立者、平生飢三郎は、この自由闊達な学園で先人な人を育てようとしたのだ。「天才はすべての人にある、またひとりひとり違ったものである」とその天才を発掘させてゆくというのが、人間を育てることの本義でなければならぬ。平生は甲南高等学校の教員に教育について語ったと伝えられる。一般に教育というと、既存の知識や技術を習得するだけ習得させることと捉えられがちだが、画一的な詰め込み教育はむしろ個人の持つ個性と創造力を閉じてしまう。教育とは、あくまで一人ひとりの才能を引き出すことであって、それ以上でも以下でもない。それが平生の教育に対する基本的な考えであった。

小・中学校にゆとり教育が導入されるなど、ようやく画一的な教育が見直され始めた日本において、大正期から個性尊重の理念をもとに教育を行っていた平生の先見の明には驚くほかない。そうした建学の想いは、現在の甲南の教育にどう反映されているのか。

例えば、現在進められている「甲南S・ネット」計画が何だろうか。充実したキャンパスネットワークの活用により、学生は自分の興味に応じて、知りたい知識を必要ときに手に入れることが可能になるが、この試みの本質の狙いは、何より学びの自主性を促すことだと言えよう。知識を一方的に与えるのではなく、知的好奇心に応じて学ぶ「S・ネット」は、平生のめざした教育そのものかも知れない。

2001年度より、広域副専攻科目に「甲南大学と平生飢三郎」を開設

実業家であり、教育者であり、政治家でもあった平生飢三郎とは、いったいどんな人物だったのでしょうか。日本が戦争へと向かう暗い時代に「資本家に平生さんのような人が10人いれば、日本は正しい方向に立ち直る」とさえ評価された指導力や思想をはじめ、手掛けてきた事業など、甲南ゆかりの講師陣が持ち回り、さまざまな視点から平生の生き方、甲南大学で学ぶことの意義をひも解きます。

あるいは、2002年よりスタートするEBA総合コース、このカリキュラムでは、1学年35人という少人数クラスのもと、海外留学などによりグローバル社会に通用する力を培う。学問に偏った教育ではなく、世界に通用する紳士を育てることを強調した平生。実業家でもあった彼の、小さな世界に留まらない、広い視野をもった人材を育てたいという想いは、こうした形にいまも実現されつつある。

時代とともに移り変わる価値ではなく、一人ひとりの個性に応じた教育を実践する。本心に大切なことを見据え、絶えず歩みを進めてきた甲南大学独自の教育は、社会が大きく変動するいまも、そしてこの先でさえ、きつと揺らぐことはないだろう。

教授・学生が見る、 甲南の個性とは!?



「教室に入ってきた先生がおもむろに島崎藤村の詩を黒板に書いて朗読。そして窓の外を眺める姿は、いまならスマートフォンと言われるかも知れない。でも、私は甲南高校時代にこんな甲南の授業を受けて育ったことに、とても感謝しています。」

授業は教科書を読み上げることで済ませない。その場で感じ、考えるのが教育なのだ。直に教えてもらう。それが、自分の授業に生きています。例えば、事前にうつくしのシリオを用意しておいて、そのまじまじの雰囲気や途端なものを演習。あるいは、一方的話すのではなく、アンケートの形式で授業を進めるなど。すべて、授業を一方的な知識の押し売りではなく、学生に感じられるものにするための工夫です。どう感じるかは学生任せでいいのです。

ではこうした教育で、どんな人を育てていくのが甲南のビジョンなのか。私は、敢えてどんな人かを育てると押しつけることは、甲南らしいと感じていません。人は無限に可能性を持っているのだから、まずはとにかく自信を持って欲しい。院生に、在学中に本を書くよう指導しているのもそのためです。」

中井久夫 / 文学部人間科学科教授、神戸大学名誉教授、医学博士。甲南高等学校を経て、京都大学医学部卒。精神医学者として治療と研究に従事する。著作集『精神医学の経験』(全3巻)など著・翻訳書多数



岡田勲 / 文学部英語英米文学科4年次。自治会中央委員会委員長。二期にわたる任期から、学生からの信頼の厚さがうかがえる

実際に甲南のキャンパスに通っている人たちは、どんなところを個性と捉えているのだろうか。文学部で教鞭を執つておられる中井久夫教授と自治会委員長の岡田勲さんに、それぞれの活動を通して甲南を感じている甲南らしさについて語ってもらった。

「僕は自治会の委員長を務めているので、多くの人と一緒に取り組みを進めることがありますが、その中でよく思うのは、甲南大学には、みんないろんな考え方の人がいるということ。しかも、だからと言ってお互いが敬遠しあうのではなく、相手のいい部分をさがしながらうまく協調している。それが僕の感じる甲南らしさかも知れません。

僕自身も、以前は仲のいい友達としか付き合えなかったのに、こんなキャンパスを過すうちに、間にか人の意見を積極的に聞くようになりました。例えば文化会から提出された分割のスケジュールを見て、正直『よくこんな細かく考えられるな』と思つたのですが、いまはそれが役立つことも知り、自治会のスケジュール作りにも生かしています。

毎年恒例の岡本クーリン作戦では、甲南大生が岡本商店街・東灘区役所・婦人会の方々と岡本周辺の清掃活動を行います。今年からは甲南女学生、神戸薬科大学にも活動の輪を広げて、いこうと呼びかけています。こうしたワークも、相手を尊重する甲南らしさは、そんなふうに感じています。」

Report 3 学部改編に見る甲南大学の個性

学術的な理学と実践的な工学を融合。複眼的な視野で科学の最先端へ挑む。



今年度より学部改編が行われたのは文学部だけではない。理学部がこれまでの学びに工学の要素をプラスし、理工学部として甲南に新たな学問領域をひらき始めた。新学部どんな成果が期待されているのか、理工学部長の山田隆己教授に伺った。

理工学部は、2011年4月に従来の理学部を再編成して生まれた新学部。これまで7つあった学科を3つに統合したこと、そして工学系のカリキュラムを組み込んだことが大きな変更点だが、これにより、新たなどんな学びが実現したのだろうか。理工学部長の山田隆己教授に改編の意図を尋ねた。

「まず、系統に近い純粋理学と応用科学系の2学科つよままとすることで、学生が学科を選択しやすくなりました。入口はできるだけ広く、年次が進んでから専門コースへ移行していくシステムとして、各人がそれぞれ考えや興味の変化に応じてフレキシブルに学べるようにしよう。また、今回の改編で何より重要なのは、応用工学系の授業を学科により大幅に取り入れたこと。これまで、学術的な研究を行う純粋理学が主体でしたが、工学系のカリキュラムを増やしたことで、学生の応用科学への理解が広がり、また研究面でも、今後社会に還元できる実証型の研究がより活発になるでしょう。学生はこうした中から基礎的理学・技術だけでなく、いま社会が求めているものを肌で感じて取って欲しい。」

1999年に最先端の研究設備を導入した「メタケリサーチセンター」が設立された。一般企業との共同研究体制が充実したことも、こうした理工学部のめざす学びを後押しする。しかし、他大学では学部の細分化・多様化が進んでいる中、工学部の新設ではなく、理工学部への再編成を図ったのはなぜだろう。

「理学と工学をそれぞれに学ぶことが、必ずしも学生の個性に応じた学習とは思いません。むしろ学術的な理学として実践的な工学を複眼的に学べることこそ、物事をさまざまな視野から捉えて正確に判断できる力が身にづく。今後リサーチシーンを発揮して、いけるのは、そうした人物ではないでしょうか。」

教育研究レベルの高さや施設・設備の充

実ぶりから、全国の私立大学でトップクラスと評価されてきた甲南大学理学部。その学びは現状に甘んじることなく、さらなる進化を遂げているようだ。これまで以上に多くの分野で、科学技術の最先端をひらいてく甲南大生の姿が見られる日も、そう遠く話ではないだろう。

甲南大学では開学当時より、あらゆる試みに個性尊重の精神を取り入れ、具体的に展開してきた。学生はそこで、好奇心のままにさまざまな経験を経験し、目標や新しい自分を発見して、決して、決して自分を得意とした教育環境だけを甲南大学の個性と呼ぶことはできない。成長する一人ひとりのパーソナリティがさらに相乗効果をお互いに刺激し合い、高め合う風情こそ本時の甲南大学らしさだから。そして同時に、いま求められる大学の個性の在り方なのかも知れない。

- ◆理工学部を構成する4学科
- 理学部
- 物理学科(理工)
- 生物科学科(理工)
- 機能分子化学科(理工工学)
- 情報システム工学科(工学)

甲南大学生の未来につなげる
就職部と卒業生の絆

鶴岡章 就職部長



花本和美さん(1999年経済学部卒業)

就職部で学生の就職指導にあたっている鶴岡章課長。「公務員担当だった当時、「女性警察官の体重基準が45キロ以上なのに、私42キロしかないんです。どうしたらいいのでしょうか?」と真顔で相談してきたのが花本さん。ほとんどの学生は、公務員になるための試験勉強や倍率の話聞いてくるのに、変わった学生だなと思いました。そのときは、相模の新弟子検査を思い出して「毎日水を飲みなさい」と叱咤してアドバイスしたのを覚えています(笑)。54倍の狭き門に合格し、「Dreams come true」を成し遂げた彼女は、いま思い返せば何事にも積極的で、明るく、いつも友人たちに囲まれていました。卒業後も、女性警察官志望の学生のために、彼女とコンタクトをとったんですが、とても親身に相談のってくれたと、その学生も大変感謝していました。このように学生とOB・OG、企業と繋ぐハイブ役も就職部の大事な仕事。人事の方とお会いして、その情報を学生に伝えたりもしています。新築の5号館に移転して学生の評判もよく、資料も取りやすいように整理し、企業検索用のパソコンも14台完備。我々職員も、資料を探している学生にこちらから声をかけるようにしています。学生には、職員や設備などをうまく活用して欲しいですね。そして、普段着の自分を就職活動の場で出せるよう、がんばって欲しいものです」

花本和美さんは、甲南大学出身の女性警察官。「学生の頃に近所で大事件があり、犯人がわからず、恐い思いをしていたんですが、駅に降りるといつも警察官の方が立っただけで、とても安心しました。たまたまその方が女性だったことで、私もこんなふうな人に頼りにされたい、と思ったのが警察官を志望するきっかけになりました。もともと人と接したり、体を動かすのが好きでしたし、何より「いなかったら困る」という仕事をしたかったんです。ただ、警察官になりたいと思っても、詳しいことは全く知らなかったの、就職部で古い願書などからせつせと情報を集めました。そこで体重基準のことが知り、「体重が足りない」と鶴岡課長に相談。その後は体重を増やすために、食べまくりましたが、お腹を壊してまた痩せて、一時は39キロに(笑)。体格審査の時は少しでも体重を増やそうと水をガブ飲みするなど大変でした。そしていよいよ発表、となるわけですが、結果がわかるのが7月末。遅い人でも6月にはもう就職先が決まっていたから、落ちていたら行くコがないのでは、と不安になり…。その気持ちを解消するため企業もまわりましたが、片手間なのが伝わるのが、全然内定がもらえません。本当、焦りました。今は念願の警察官になって、正直、ホッとしています。夜勤など肉体的に辛いこともありましたが、人から頼りにされているとわかったら、本当によろしいです」

1976年、甲南大学法学部卒業。同年、甲南大学事務局に入局し、入試事務室に。その後、図書館、財務部経理課を経て、1996年に就職部に配属され、学生の就職活動をサポート。現在は課長として就職部のマネージメントを担当。

甲南大学出身の女性警察官。卒業後は陸奥の兵庫県警察学校で訓練を受け、刑事課や交通課、生活安全課などでの実習を経て、再び警察学校へ。2000年に兵庫県警警察署地域1課に配属、神戸市民のためにがんばる日々。



Seminar

ゼミ編
岡田ゼミ

経済学部経済学科
岡田元浩教授



ゼミ生が語る
人気コリタ「ナリ金融道」をテキストに、金融の常識から裏側まで、「お金の流れ」をリアルに学ぶ。岡田ゼミの特徴はまず「経済マンガ」の学術書とは違い、分かりやすく、おもしろい。金融トラブルを中心に巻き起こるストーリーを通して、手形の仕組みや各法律(保証人になること)のリスクや将来どんな道に進んでも必ず役立つ知識を得られるのが貴重です。さらに、金融業界の裏側や人の人生まで見えてきて、とてリアルで興味深い。いわゆる学問にとどまらず、社会勉強にも大活躍ですね。こうしたニッチなスタイル自体、学生の興味を引き出すための先生の工夫だと感じます。一人ひとりの自主性を大

留学生vs日本の学生
「外国語としての日本語」を通して
互いの文化を発見し合う。

日本語を外国語として見てみると、実はとても曖昧。例えば「どう思うのですか」と言いつつ「終わり」は「暗黙の了解」で通じ合う。国際言語文化ゼミターでの私の主な役割は、留学生に日本語を教えることですが、こうした背景から話してきます。文法や語彙だけ覚えればよい、というわけではないんです。日本の学生に、日本語の教え方を教える「日本語教授法」でも同じことを言っています。また、彼らと交流させることも、私の仕事の「異性観」や「職業観」など、テーマを決めて日本語で討論してもらいます。そのなかで留学生は日本をより深く

「外国語としての日本語」をテキストに、金融の常識から裏側まで、「お金の流れ」をリアルに学ぶ。切に自由に発言させてくれ、足りない部分やポイントはずし解説。講義の雰囲気は和やかながら、みんな真剣に取り組んでいます。また、そんな先生を中心に、学生同士のつながりが強いのもこのゼミの魅力。とくに印象に残っているのは、「連帯保証人」をテーマに「劇」という形で合同で研究発表をしたことです。さまざまな意見を一つにまとめたり、分りやすくしたりと落とし込んでいく作業は大変なだけ、それだけに理解も深まり、難しい専門用語も自然に覚えられました。このゼミで学べる経済学は、とにかく堅苦しくなく、身近で実用的。社会全般に関心を持てるようになり、本当の意味で勉強の楽しさを知った気がします。



Laboratory

研究室編

原田研究室

国際言語文化センター
原田 登美教授

知り、日本の学生も「外から見た日本」を発見。さらに、自分とは何か日本人とは何かを掘り下げ考えやうになり、自己の確立にもなっています。とくに国際舞台では、自分の考えをほめて相手に伝えることが大切。その練習も兼ねて教授法の時間でも、一人ずつ前に立って発表するのが基本です。これが何回も重ねることに、みんな堂々と話せるようになり、私自身驚かされています。もちろん講義に限らず、甲南大学のキャンパス自体が国際コミュニケーションの場。留学生も日本の学生も積極的に話し合い、互いの違いを認識しながら、「真の国際人」になろうと努力しています。

本場、ドイツの留学生からワザを伝授。
2部昇格をめざし、合同合宿にもトライ!

Sports

体育会 女子ハンドボール クラブ



7人対7人でボールを駆使し、相手キーパーのブロックをめざしシュート。サッカーとバドミントンを融合させたユニークなスポーツそれがハンドボールです。体育会女子ハンドボールクラブは現在部員数13人。主に6甲アイランドのグラウンド、岡本キャンパス内の体育館で週一回程度練習を行っています。その内容は、筋肉トレーニングやランニングから、フットワークやシュートなどの実践的なメニューまで、女性のクラブとは思えないほどハード。岐阜大や南山大などまで遠征して合同合宿を行うなど、精力的に活動しています。

最近のトピックとしてはハンドボールの本場、ドイツの留学生ライオン・ヒルツが加入していることだが、10年ほどのハンドボール経験を持つ彼女に、シュートの打ち方などの個人的な技術を教わることもでき、レベルの違いを痛感するともに、とてもいい勉強になったそうです。

今一番の悩みは「部員数が少ないこと」。そのため、やりたい練習ができないうちがあり、OJGに助けけてもらうことも……。しかしその分、団結力は強く、先輩・後輩の仲の良さは自慢。次の目標である関西学生ハンドボールリーグ2部昇格をめざし、チーム一丸となって練習に取り組んでいます。



一曲に1年間かけて練習することも。
12月の定期演奏会をめざし、日々特訓中。

Culture

文化会 女声合唱団 アモローゾ

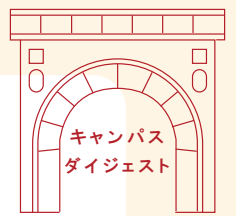


「アモローゾ」とはイタリア語で「かわいい」という意味。その名にふさわしく、かわいらしさをモットーにした女性だけの合唱団。それが文化会女声合唱団アモローゾです。部員数は現在16人で、活動は週3回程度、1回あたりおよそ2時間ほど練習。12月に行われる定期演奏会をはじめ、他大学のシゴント・フササトなどの参加をめざした練習を主にしています。そのパトリーは幅広く、合唱系の曲からポップスまでさまざま。日本語だけでなく、イタリア語などの外国語曲にも挑戦し、そのジャンルを広げていきます。

普段はソプラノ、メゾソプラノ、アルトといふパートに分かれて練習。難易度の高い曲であれば、1年間かけて練習することも。そうです。それだけに全員一音一音を合わせたときの気持ちよさはひとしおだが、さらに、1年間目標としていた演奏会が終わった瞬間は、何とも言えない充実感で胸がいっぱいになります。99年には文化会監査委員賞を受賞。00年には父母の会会長杯を受賞するなど、その実績はなかなかのもの。これから歌を通してアモローゾらしさを伝えたいと抱負を語ってくれました。



CAMPUS DIGEST



また一つ、夢の実現。
柔道部と歌舞伎文楽研究部が
この夏、海外へ。

学生の自主的な活動を支援する「甲南21クリエイティブプラン」部、クラブの特別活動企画として選ばれた優秀な5点のうち、この夏、体育会柔道部と文化会歌舞伎文楽研究部がその企画を実現しました。柔道部の選手28人は、9月11日から21日までフランスに遠征、「第3回日仏親善トウレイヌ甲南カップ大会」に出場し、ほか各地で現地の柔道界と試合や合同練習を行い、交流を図りました。同部はこれまで、神戸市の国際友好使節団のメンバーとして、中国・天津市を4カ国を訪問し、柔道を通じて各国との親善を深



めてきましたが、単独遠征は初めて。「トウレイヌ甲南カップ大会」は9月15日、トウル市近郊にある本学園の海外校、トゥレーヌ南学園（高等部、中等部の道場）、対戦相手のトゥール選抜チームが強豪メンバーを集めているという情報もあつて、親善試合とはいえ、出発前から厳しい練習を重ねてきましたが、案の定、試合は「向うの気迫がひしひしと伝わってきた」（小島宏之主将）というほどの熱戦となり、結果は9対9の引き分け。最後は両軍選手が固い握手を交わし、再会を誓い合いました。

一方、9月9日から18日まで、歌舞伎文楽研究部の部員ら18人は、歌舞伎を通じた日豪交流を目的に、オーストラリアを訪問。シドニーやキャンベラなどを訪れ、現地の大学や高校で3回にわたって歌舞伎を上演しました。この現地での公演は、部員にとり、2年前に神戸を訪れたオーストラリア国立大学の学生とともに歌舞伎を上演した時からのいわば「夢」。あえて日本語を使い、演技力で勝負しようという意気込みのもと、「勅

前期の卒業証書・学位記授与式が行われました。

2001年度の前期をもつて卒業が認定された学生23人、同じく大学院の学位が認定された院生1人の卒業証書・学位記授与式が、9月20日午前10時から121講義室で執り行われました。式辞の中で吉沢英成学長は、米国の同時多発テロ事件に触れ、あと「号館前の石碑に『常備砲』という平生素三郎先生の言葉が刻まれている。人は自分の名譽と誇りをしっかりと持っている、いつとなくことが起こっても、きちんと対応できる。その気持ちをおぼれ、これからの人生を歩んでほしい」と激励されました。続いて、戸山晶夫理事長の祝辞があり、学園歌を斉唱して閉式となりました。卒業生の内訳は、文学部14人、理学部10人、経済学部28人、法学部44人、経営学部27人、大学院人文科学研究科修士課程人間科学専攻1人。

